

[概要]

地理学においてイメージの研究は数多く行われている。そのひとつに場所イメージの研究があげられる。本研究においても、この場所イメージという概念を用いて、富山市と金沢市のイメージを明らかにしていく。以前より、富山市と金沢市のイメージに差異があることが明らかになっていることから、この差異を踏まえたうえでSD法という分析方法を援用し、2都市の場所イメージを明らかにする。また、限定的な属性に対して分析を行うことで、イメージの形成要因を明らかにするとともに、2都市のイメージの差異の理由を探求する。

その結果、2都市のそれぞれの場所イメージについては、富山市においては、「地味な」「田舎」といった農村的なイメージで捉えられていた。一方金沢市においては、「華やかな」「都会」といった華やかできらびやかなイメージで捉えられていた。また、イメージの形成には、居住年数や出身地域が影響を与えていることが明らかになった。そして、富山県民の場合金沢市に対して「あこがれ」を抱いているといえた。このような感情が、金沢市のきらびやかなイメージにつながるのだと考えられる。以上のことから、地域的特性はもちろんのこと「あこがれ」などの人々の感情もイメージの差異に深く関わっているといえる。

キーワード：イメージ，富山市，金沢市，SD法，場所イメージ